

ひょうご 水百景

No.112 大池川・福島大池（三田市福島）

～行基が築造したとされる福島大池、有馬富士をバックに～



写真-1 有馬富士をバックに福島大池を撮影（令和2年4月撮影）

■ 絵になる溜池～福島大池

上の写真は、新緑の頃に県立有馬富士公園※1 中にある福島大池を、有馬富士をバックに撮影したものです。

この日は雲ひとつない快晴でしたが、少し風があったため有馬富士が水面に映る「逆さ富士」は残念ながら見る事ができませんでした。池に突き出た小島には水の女神「弁才天」が祀られています。

なお、福島大池は福島水利組合が管理し、JR新三田駅周辺の田んぼ約50haを灌漑しているそうです。

※1 有馬富士公園：三田市福島にある県下最大級の広域都市公園（規模：416.3ha）。「自然休養型の文化公園」をテーマとし、福島大池を中心に、水辺、草地、林の3つの生態園や野鳥の広場、かやぶき民家、棚田、あそびの王国などがある。

■ 行基が築造したとされる福島大池

かつての有馬郡※2 には、福島大池（三田市福島）、高坂池（神戸市北区長尾町上津）、菅生池（須古池ともいう：神戸市北区長尾町宅原）という3つの大池があって、奈良時代、行基によって築造されたという伝承があります。それによると、行基は衰退に向かっていた有馬温泉を再興しますが、その後さらに有馬郡中央部の開拓に着手します。この地方に住んでいた秦氏の集団（渡来氏族）を使ってこれら3つのため池を築造したそうです。

「一に福島、二に高坂池、三に宅原菅生池（いばらすごいけ）」と昔からうたわれていて、「一」の福島大池は三田地方にどんなにひどい干ばつがあっても、池掛かりの田は枯れることがなかったことから、福島村は「三田の稲の種とり場」と言われてきたとか。



写真-2 有馬富士公園

『三田の民話』の中に「行基さんの杖あと」というのがあります。

奈良に都があった頃、行基という坊さんが、諸国をまわって修行されていた。～(中略)～ 福島では、少し日照りが続くと、水が枯れて米ができないことがよくあった。そこで谷川をせき止めて池を造られた。そのおかげで、どんなに日照りが続いても水を流すことができ、米ができるようになった。福島は米がよくでき、農民の暮らしは豊かになり、幸せになった。それでこの村を「福ノ島」、この池を「福島大池」と呼び、人々に親しまれるようになった。

※2 有馬郡：明治12(1879)年に行政区画として発足した当時の郡域は、概ね下記の区域にあたる。

- ・神戸市北区の一部(有馬町各町・有野町各町・八多町各町・大沢町各町・長尾町各町・道場町各町および内包する各町)、灘区の一部(六甲山町の一部)
- ・三田市の大部分(末吉・布木・川原・十倉・田中・酒井・鈴鹿・下里・木器・上槻瀬・下槻瀬・市ノ瀬・波豆川を除く)
- ・西宮市の一部(山口町各町・塩瀬町各町および内包する各町)

■ 福島大池立地点の地形・地質について

福島大池付近の地質は、図-1の地質図からわかるように、基盤岩は中生代白亜紀有馬層群の流紋岩質佐曾利凝灰角礫岩(As)で、池北東部にある有馬富士も同様の地質です。

そして福島大池から流れ出る大池川の南側については、佐曾利凝灰角礫岩の上に形成されていた低位の準平原上に第三紀神戸層群(Kl, Km)が堆積し、さらにその上に第四紀の大阪層群(Ou)が堆積しています。

福島大池は、大池川の遷急点(せんきゅうてん：緩やかな河床勾配が急勾配に変化する地点)付近で谷幅が狭くなっている場所を選定して築かれています。その遷急点を過ぎると、大池川は急勾配で下って行きます。途中、図-1からもわかるように蛇行帯の幅200~250m、渓谷の深さ50m前後の著しい穿入蛇行河川^{※3}を形成しています。



図-1 福島大池付近の地質図

※3 穿入蛇行(せんいゅうだこう) 河川：山地内などで蛇行した河川が、深い河谷をつくっている場合を穿入蛇行と呼ぶ。穿入蛇行は、かつて平野上を自由蛇行していた河川が、侵食基準面の低下によって下刻するようになったため生じたと解される場合が多い。

古い順に

As：中生代白亜紀の有馬層群・佐曾利凝灰角礫岩

Kl：古第三紀の神戸層群下部累層

Km：古第三紀の神戸層群中部累層

Ou：新生代第四紀の大阪層群上部亜層群

Tr：中・低位段丘層



■ 福島大池、理にかなった施設配置

福島大池は、二級河川・武庫川の左支川・大池川の中流部（武庫川合流点から約1.7km上流）に築造されたもので、大池川の遷急点付近で谷幅が狭くなっている場所に土堰堤を築き、洪水吐はやや南にある露岩地に設けられています。土堰堤は越水に弱いことから洪水吐は岩盤上に設けることが基本となっていて、福島大池の施設配置は実に理にかなっているといえます。

ただ、元々露岩地が都合よくあったわけではなく、土堰堤を築くために盛土材として基盤岩上に堆積していた神戸層群下部累層の掘削土を使用し、その跡地を洪水吐にしたと考えるのが妥当ではないでしょうか。

福島大池の集水面積は2.51km²で、堤高9.0m、堤頂長110.0m、貯水容量198,000m³、満水面積は85,000m²です。（「農地整備課ため池調べ」から）山の中にありますが平均水深2.3mということで、いわゆる“皿池”です。

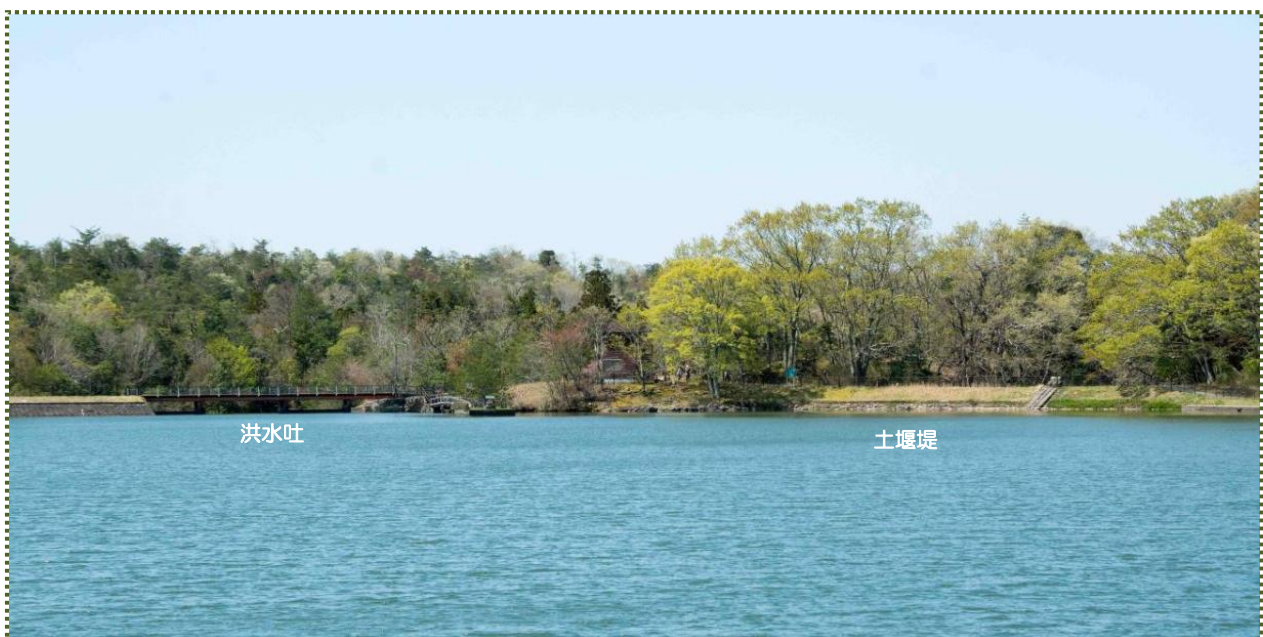


写真-3 福島大池洪水吐付近を撮影

池から放流された水は、大池川を流れ下り、途中に設けられた小規模な井堰で取水され、水田を潤しながら武庫川に排水されます。大池川の法河川上流端は、福島大池の直下です。

なお、武庫川の大池川合流点直上には、行基により築造されたという伝承を有する針杭（はりくい）井堰があります。この井堰の受益面積は約 50ha、受益地は主として大原、川除、三輪の3地区です。



写真-4 露岩地に設けられた洪水吐



福島大池

写真-5 池畔のかやぶき民家を望む

■ 『三田八景』のひとつ～有馬富士と福島大池

昭和 63（1988）年に三田市が市制施行 30 周年を記念して、三田を代表するすぐれた風景を募集し、昭和 64（1989）年 1 月の広報紙で『三田八景』として発表しています。

市のホームページで八景が紹介されていますが、そのトップが「有馬富士と福島大池」です。富士山にその姿が似ていることから、その名がついた有馬富士（374m）と、風のない時は福島大池の水面に映る「逆さ富士」が有名です。

八景の紹介順序が得票数順かどうかわかりませんが、他の七景を紹介順に記すと、武庫川、千丈寺湖^{※4}、青野川溪谷^{※5}、永澤寺^{※6}と花しょうぶ園、花山院、ホロンピア館と深田公園、天神公園です。

何と「八景」のうちの半分が「水景色」です。



写真-6 永澤寺の花しょうぶ園



写真-7 福島大池の洪水吐

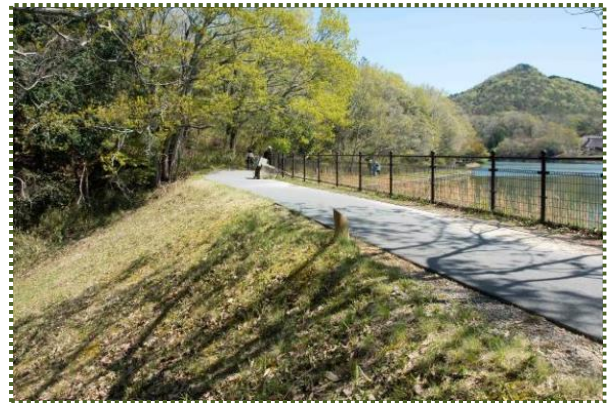


写真-8 大池川流路を堰き止めた土堰堤



写真-9 三田市役所付近を流れる武庫川



写真-10 青野ダム天端から千丈寺湖を望む



写真-11 青野川溪谷・ニン滝

※4 千丈寺湖：昭和 62（1987）年度に完成した青野ダムによって誕生した人工湖。湖名の由来は、貯水池の北にある千丈寺山（標高590m）。青野ダムは、洪水調節と北摂・北神地域の水道水源の確保、流水の正常な機能の維持を目的として建設された多目的ダムで、湛水面積 215ha は県下一の広さ。水没戸数は 86 戸。

※5 青野川渓谷：右上の写真は、青野川渓谷上流部にある尼ン滝（あまんだき）で、一般県道 308 号・管地中三田線沿いにある。この県道は、青野-母子街道と呼ばれ、古来永澤寺への参詣道として開かれた道である。「尼ン滝」は、尼僧がこの滝に打たれ修業したところからこの名がついたと伝えられている。

※6 永澤寺（ようたくじ）：三田市永沢寺にある曹洞宗の寺院。地名の「永沢寺」の読みは「えいたくじ」。

■ モノローグ

県下に溜池がおよそ 24 千箇所あり、溜池保有数全国第 1 位といわれる兵庫県の中で、福島大池ほど絵になる溜池は他にありません。（多分）ただ、ここまで書いてきて 1 点だけ気になることがあります。それは福島大池の所在地名です。⇒三田市福島字切池 796 過去に何かあったんでしょうか。

ミツマタ（三桠）の花

ジンチョウゲ科ミツマタ属の落葉性低木。原産地は中国中南部・ヒマラヤ地方とされ、3月から4月頃にかけて、三つ又に分かれた枝の先に黄色い花を咲かせる。そのため、「ミツマタの花」は日本においては仲春（啓蟄〔3月6日頃〕から清明の前日〔4月4日頃〕まで）の季語とされている。有馬富士公園のガーデン階段付近に咲いていた。枝が必ず3つに分かれることからこの名が付いた。皮は和紙や紙幣の原料として用いられる。同じく和紙の原料である雁皮（がんぴ）の栽培が困難であるのに対し、ミツマタは楮（こうぞ）と同様に栽培が容易。



写真-12 ミツマタの花（4月上旬有馬富士公園にて）

【参考資料】

- 1 『三田市史・第一巻 通史編Ⅰ』 三田市史編さん専門委員 平成 23 年 3 月
- 2 『三田の民話～行基さんの杖跡』 三田市 HP 令和 4 年 3 月更新
https://www.city.sanda.lg.jp/soshiki/15/gyomu/rekishi_bunkazai/minwa/4092.html
- 3 『三田八景』 三田市 HP 令和 4 年 3 月更新
<https://www.city.sanda.lg.jp/soshiki/2/gyomu/gaiyo/profile/203.html>
- 4 『武庫川上流史』 三田市 昭和 58 年 4 月
- 5 『兵庫の地質』 兵庫県土地質図編纂委員会 平成 8 年 3 月
- 6 『特定ため池等指定箇所（令和元年7月31日指定）』 三田市
- 7 『摂津国風土記散歩 19・むくげ通信 205 号』 寺岡 洋 平成 16 年 7 月
- 8 北摂里山博物館 HP

※発行：令和 2（2020）年 9 月 『ひょうご水百景』 No.112

改訂：令和 8（2026）年 4 月 『ひょうご水百景』 No.112